

# 選択肢広がる整形外科治療 腰や膝の痛みにも寄り添う 専門的治療で早期の社会復帰へ

## 腰部脊柱管狭窄症

今年4月、院長に就任された抱負をお聞かせください。

熊大病院に17年間勤務し、主に側弯症や脊髄腫瘍などの特殊な疾患の治療に当たってきました。院長に就任して4カ月、各専門の先生方や看護、リハビリのチームワークが素晴らしく、働きやすさややりがいを感じています。

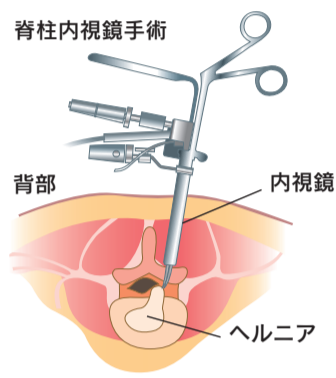
腰の痛みで来院する方も多いためですが、脊柱管狭窄症について教えてください。

背骨の中の神経の通り道である脊柱管が加齢と共に狭くなり、神経を圧迫するために起こる病気で、下肢の痛みやしびれにより歩行が困難になります。歩いていると足が痛くなったりしびれたりするけれど、前かがみになったり、座ってしばらく休んだりしている

と、また歩けるようになる「間欠跛行」と呼ばれる症状が特徴的です。10分以上の連続歩行ができない場合は、専門医の診断を受けることをお勧めします。患者さまの体の動きや痛みの範囲などを観察し、レントゲンやCT、MRIなどの画像診断と照らし合わせ、痛みみの原因を見極めていきます。

治療法はどのようなものになりますか。

まずは、血管を広げ神経への血流を良くする薬、神経の炎症を和らげる薬を内服するほか、温熱療法や神経ブロックなどの保存的治療が基本になります。保存的治療を2〜3カ月続けても改善が見られず、日常生活に支障があるときは手術を検討します。手術は内視鏡や顕微鏡による患者さまに負担の少ない手術を行います。低侵襲の手術のため、術後に痛み止めの薬を必要とせず、早期に歩行し、炎症反応が少なく発熱しにくいなど



成尾整形外科病院 院長 藤本 徹氏

1991年宮崎医科大学卒業。熊本大学医学部付属病院、延岡病院、熊本労災病院を経て、2000年熊本大学大学院医学研究科(外科系博士課程)卒業。06年から熊本大学医学部付属病院勤務。21年から特任准教授。23年4月から現職。日本整形外科学会認定整形外科専門医。



自分の体の状態を把握するために、痛みがあれば早めに専門医の診断を仰ぐことが大切です。

そうですね。今はいろいろな所から簡単に情報を得られますし、



腰や膝の耐え難い痛みは、日常生活に支障を来します。近年、効果的な新薬が登場し、体への負担が少ない低侵襲の治療法が確立されています。2023(令和5)年4月に新院長を迎え、新たな体制で脊椎疾患・関節疾患の専門性を生かし治療に当たる成尾整形外科病院の専門医に話を聞きました。

膝関節の痛みでは、どのような症状を訴える人が多いですか。

当院に来院される方の大半は、変形性膝関節症で、膝の内側に何となく痛みを感じるという方が多いようです。人によっては突然痛みが生じ、画像診断をしてみるとすでに軟骨が擦り減って症状が進行しているという人もいます。痛みの感じ方はそれぞれですが、初期段階では、立ち上がる時や歩き始めに痛みを感じるけれど、少し休めば痛みが和らぐため、そのまま様子を見ている人が多いかもしれません。中期になると、正座や階段の上り下りが難しく、さらに症状が進むと、安静時にも痛みが生じ、膝の変形が見られます。

変形性膝関節症の治療は、

まずは、痛みに応じて炎症を抑える鎮痛剤や湿布、ヒアルロン酸などの注射を基本とした保存的治療を施します。場合によっては器具療法で、関節の負担を軽減したり、リハビリで筋力の強化を行いつつ可動域の改善を図ったりします。それでも改善が見られなければ、内視鏡を用いた手術を検討するほか、膝の変形が進行している場合は、骨切り術や人工関節置換術などの手術を行います。近年は、自身の血液を用いた膝関節の炎症を抑制する治療法もあり、治療の選択肢は確実に増えています。いずれの治療においても大切なのは的確な診断です。気になる症状がある方はもちろん、治療をしないけれども、セカンドオピニオンを検討してみてもよいかもしれません。痛みから行動範囲や活動内容が制限されることのないよう、治療を通して健康に生活していただくためのサポートをしています。

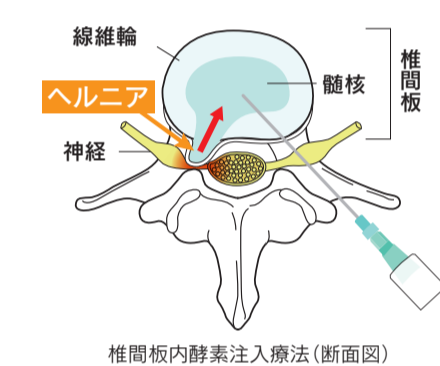


成尾整形外科病院 理事長 成尾 政一郎氏

1995年久留米大学医学部卒業。熊本大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。天草中央病院、熊本中央病院、熊本大学医学部附属病院、熊本労災病院勤務を経て2004年から現職。日本整形外科学会認定整形外科専門医。

ヘルニアや圧迫骨折に有効な治療法があるそうですね。

椎間板ヘルニアの治療は、これまでは薬や神経ブロックが主流で、改善しない場合は、内視鏡や顕微鏡を使った手術に移行するケースが大半でしたが当院では、2020年から新薬を使った椎間板内酵素注入療法(ヘルニコ



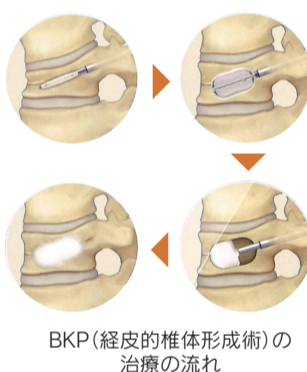
椎間板内酵素注入療法(断面図)

この数字は、脊椎と関節といった専門性の高い医療に取り組んできた当院への信頼と今後への期待の表れだと思っています。一人一人が抱えている痛みが寄り添い、長年の痛みから解放され、本人が希望する社会復帰ができるよう、医師とリハビリがさらなる連携を図りながら取り組んでいきます。

ヘルニアや圧迫骨折に有効な治療法があるそうですね。

椎間板ヘルニアの治療は、これまでは薬や神経ブロックが主流で、改善しない場合は、内視鏡や顕微鏡を使った手術に移行するケースが大半でしたが当院では、2020年から新薬を使った椎間板内酵素注入療法(ヘルニコ

ア(保険適用)を積極的にを行っています。この治療法は、保存療法と手術療法の中間に位置するもので、保存療法では症状が改善されず手術に踏み切れない人に推奨するものです。治療は15分程度で終わり、様子を見るため1日入院していただきます。また、戻りも遅く、痛みが自然と改善に向かえばよいのですが、痛みがあるけれど我慢しながら生活することで症状が慢性化し、日常生活に支障を来している人もいます。脊椎、膝関節についても、従来のような大がかりな手術ではなく、体への負担が少ない治療法が開発されたことで、治療を受けられた患者さまからは、「もっと早く来ればよかった」という声を頂いています。



BKP(経皮的椎体形成術)の治療の流れ

これらの治療には専門的知識と経験が必要です。

今年4月、熊本大病院から脊椎脊髄腫瘍など専門性の高い現場で働いておられた藤本徹医師を院長として迎えるほか、麻酔医も増員し、総勢13人の医師で患者さまの治療に当たっています。昨年(2022年4月〜23年3月)の手術件数は、脊椎関連が845件、関節が1204件、その他の手術も合わせ1204件に上りました。

成尾整形外科病院 関節外科部長 林田 実氏

2002年熊本大学医学部卒業。こども総合療育センター、熊本労災病院、大牟田天徳病院、済生会熊本病院、人吉医療センターなどを経て、2018年4月から勤務。関節、外傷、スポーツ障害などを担当。日本整形外科学会認定整形外科専門医。



## 変形性膝関節症

自分の体に関心のある人が増えていっていると思います。しかしその情報が正しいかどうかは、やはりしっかりとした診断の裏付けがないと、後々の生活に支障を来しかねません。



医療法人社団 誠療会  
**成尾整形外科病院**  
NARUO ORTHOPEDIC HOSPITAL

理事長 成尾 政一郎  
院長 藤本 徹

- 【診療科目】 ◎整形外科 ◎リハビリテーション科 ◎リウマチ科 ◎内科 ◎麻酔科(中野伸彦) ◎漢方内科
- 【診療日】 月曜日～土曜日 ※土曜日は午前からのみの診療です。
- 【診療時間】 平日/ 9:00～17:30、土曜日/ 9:00～12:30

【休診日】 日曜日、祝日、土曜日午後、年末年始



〒862-0958 熊本市中央区岡田町12-24(白山通り)  
**TEL 096-371-1188(代表)**

